

研究機関名：東北大学

受付番号：	2012-1-305
研究課題名	診療記録、検査資料を用いた気管支異物患者の臨床データの解析
研究期間	西暦 2012年 10月（倫理委員会承認後）～ 2017年 7月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（東北大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療記録、検査データ） 上記材料の採取期間 西暦 1985年 1月～2012年 8月
意義、目的	気管・気管支異物は頻度の少ない疾患であるが、症例の多くは幼小児で、異物の種類、場所、介在する期間により呼吸困難や重篤な感染を惹起することがあり、初期治療を担当する小児科医や耳鼻咽喉科医にとって責務の大きい救急疾患である。従来、異物の吸入の気管から摘出までの日数を経る程、手術のリスクが高いと報告されている。しかし、我々は昨年の本学会でフライドチキンが気管支異物となり、異物吸引から24時間以内に摘出しているにも関わらず、術後の油の影響と考えられる肺合併症にて治療に難渋し、約1カ月の入院加療を要した症例を報告した。そこで、気管・気管支異物の肺合併症にはどのような因子があるかを検討する
方法	過去 30年間に当科で気管支異物摘出術を施行した患者の診療記録、検査記録をreviewし、年齢、異物の介在期間と肺合併症との関連を解析する。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科 日高浩史 連絡先：〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科 TEL:022-717-7304/ FAX:022-717-7307